

福岡みらい病院で デバイス補助療法を受けられた患者様へ

当院機能神経外科・脳神経内科では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。またご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報保護や、この研究の独創性確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。この研究は当院の倫理審査委員会の審査を経て、院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	デバイス補助療法(DAT)を行うパーキンソン病患者のための生活の質(QOL)評価尺度の開発：LCIGデータによる多施設共同研究
当院の研究責任者（所属） 本研究の目的	宮城 靖（機能神経外科） 進行期パーキンソン病(PD)においては、脳深部刺激療法(DBS)やレボドパカルビドパ持続経腸療法(LCIG)などのDATで治療を行う場合、DAT特有の経過をたどる可能性や、DAT特有のトラブルも生活の質に影響する可能性があります。我々がDBS患者さんのために開発したQOL評価尺度PDQ-DAT (Neurol Med Chir 61:475-483, 2021)をLCIG患者さんにも適用できるように他施設のLCIGデータも追加し改良してその妥当性を検証するのが目的です。これによりPD患者さんのQOLに立脚したDAT治療を正しく評価でき、今後の治療選択の指針とします。
調査データ該当期間	西暦 2020年 7月31日～西暦 2026年 7月 31日
研究方法	多施設共同・後方視的・観察研究 ●調査の対象となる患者様 福岡みらい病院でデバイス補助療法（DBSまたはLCIG）で治療中のパーキンソン病患者さん <電子カルテに記載のある診療情報> 年齢、性別、罹病期間、ヤール重症度、PDQ-DATアンケート結果 <参加協力施設（50音順）> 岡山脳神経内科クリニック、鹿児島大学病院、北九州総合病院、九州大学病院、国立病院機構沖縄病院、国立病院機構熊本再春医療センター、潤和会記念病院、広島通信病院、福岡大学病院
個人情報の取り扱い	対象者のプライバシーおよび個人情報の秘密を守るため、使用するデータは個人を特定できないよう全て匿名化し、研究責任者のもと機能神経外科のパスワードロックされたPC内で厳重に管理します。保管期間は研究終了後 5年間とし、破棄する際はデータを復元不可能な状態に処理して破棄します。
本研究の資金源（利益相反）	本研究の実施にあたり利益相反はありません。 研究参加による謝礼は発生しません。
お問い合わせ先	福岡みらい病院 機能神経外科 電話：092-662-3001（代表） 研究責任者：宮城 靖